Ａ　話すこと・聞くこと部会　令和元年度の研究の方向

話すこと・聞くこと部会部長　恵那市立恵那東中学校　小島　光太郎

１　今年度の研究の方向

令和元年度　中国研　研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

◎言語活動に魅力を感じながら、学習の意義を自覚して見通しをもち、主体的に学ぶ姿
◎目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
◎自己の姿をメタ認知しながら、変容や学びの深まり、学んだことを自覚し、さらに別の場で生かそうとする姿

令和元年度　「話すこと・聞くこと」部会　研究主題

目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成

～目指す生徒の姿の具体化と、効果的な評価の在り方～

研究仮説

・言語活動を通して生徒にどのような力を身に付けさせるのかを具体化して描き、学習する意義を生徒に理解させながら見通しをもって学習させることで、生徒は目的や場面に応じて適切に表現する力を身に付けるであろう。
・さらに生徒自身が自己の変容や学びの深まりを自覚するような評価の工夫を行い、次の指導に生かすことで、生徒自身が言語能力の高まりを実感し、別の場でも学びを生かそうとするであろう。

（１）指導計画の工夫

①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と、岐阜県全域における「中国研ホームページを活用した情報共有」の推進

・指導計画の段階で、指導事項と照らし合わせながら言語活動の完成形をより具体的に描く。
・その中で生徒に「付けたい能力」を身に付けさせるために、どのような姿が見られたらよいのかという具体的な姿を明確にする。（黒板写真・授業資料の共有）

②学ぶ魅力・必然性のある教材開発

・「話したい」、「聞きたい」と思うような魅力あるテーマ設定を考える。同時に「話し合わなければいけない」といった必然あるテーマについても考えていく。

（２）指導・援助の工夫

①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

・課題化までに、必然を感じさせるような効果的な導入の工夫をする。
・効果的なモデル提示の在り方を工夫する。

②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手だての工夫

・うまくできない生徒ができるようになるための「苦手を克服するための手立て」はもちろん、得意な生徒がさらに上のレベルを目指せるようにするための「得意を伸ばす手立て」も考える。

（３）評価の工夫

生徒自身が５０分間での自己の高まりを実感することができる場の位置付け

①学習活動の中での自己の姿を客観的に知り、評価できるような音声言語教育の評価の在り方を工夫する。（ビデオカメラや IC レコーダー、タブレットといった機器の効果的な活用）
②生徒の習熟度を効果的に評価する「場」と「方法」を工夫する。

２　今年度の活動報告

（１）「飛騨地区中学校国語科研究協議会　夏季統一研究会」での研究内容の伝達

本年度８月６日に実施された「飛騨地区中学校国語科研究協議会　夏季統一研究会」の中で、飛騨地区の「話すこと・聞くこと」部会の先生方に、県中国研の研究の方向性をお伝えし、共通理解を図った。

①　昨年度の研究主題の中から大切にしたいこと

○「必然のある言語活動の設定」

生徒に「話したい」「話し合いたい」と思わせるようなテーマの設定が大切である。単元の導入で生徒がテーマに対する必然性を感じることが、その後の活動のエネルギーとなる。

１年生は「日常生活」の中から、２，３年生は「社会生活」の中からテーマを見つける。教科書に掲載されているもの通りにテーマを設定することが、必ずしも生徒の主体性に結びつくとは限らない。例えば、以下のようなことが生徒の主体的な姿を生み出すテーマとして考えられる。

【学校生活に関わりがあること】
・よりよい学校生活を送るために、改善が必要なこと。
・係活動、生徒会活動、行事などについて、具体的な取組方法や取組内容。
【地域社会に関わりがあること】
・地域を活性化させる方法。
・地域の行事。
→地域のことをテーマにする場合、関係機関の方から「依頼」という形で話をしていただくと、より生徒にとっての必然性が増す。

②　今年度の研究主題の中から大切にしたいこと

○「目指す生徒の姿の具体化」

単元を構想する際に、今回の単元で生徒がどんな話し方をすればいいのか、どんな話し合いをすればいいのかということを、具体的な姿として描くことが重要である。そうすることが、単位時間の役割を明確にするとともに、指導を焦点化することにつながるからである。方法としては、以下の順で行うとよい。

「学習指導要領の指導事項」→「学習指導要領の解説」→「目指す姿」

○「効果的な評価の在り方」

「話すこと聞くこと」の学習は音声言語のため、話したことはすぐに消えていってしまう。評価について、ビデオカメラやタブレットで動画を残したり、IC レコーダーで音声を残したりして、授業後に評価をすることが考えられるが、非常に手間がかかり現実的に毎日の実践の中ですべてを再生して評価することは難しい。今年度は、「効果的な評価の在り方」を副主題に掲げ、取り組んでいる。

（２）「話すこと・聞くこと部会」研究部員の先生方の実践の蓄積

話すこと・聞くこと部会の研究部員の先生方にも、研究構想をもとにして意欲的な実践を行っていただき、成果を蓄積していくことができた。令和元年 12 月 27 日に実施した研究部会の中で発表していただいた先生方の実践について紹介をする。

①　川久保　智子　　教諭（岐阜市立長良中学校）

◇単元名：「論点を捉えて」～グループ・ディスカッションをする～（１年）

【研究内容（１）指導計画の工夫　②学ぶ魅力・必然性のある教材開発】について

本単元では終末を意識した話し合いを段階的に行えるようにグループ・ディスカッション後の報告会の設定や報告の仕方を位置付けた。さらに、話し合う議題については、実際の日常生活の中で子供たちが課題だと思っていることの中から設定し、必然のある中で話合いが行えるようにした。

【研究内容（３）評価の工夫　②生徒の習熟度を効果的に評価する「場」と「方法」を工夫する】について

生徒自身が自己の高まりを実感することができるよう、毎時間授業の始めに個人目標を設定させ、自己評価を行った。また、各グループの話合いの様子をタブレットで毎時間撮影し、単位時間のねらいに沿って評価を行った。さらに、その評価を基に、次時の話合いでは、的確に支援できるようにした。

② 加藤　祐輝　　教諭（岐阜市立加納中学校）

◇単元名：「論理を捉えて」～パネルディスカッションをする～（２年）

【研究内容（２）指導援助の工夫　②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手だての工夫】について

個に応じた手だてとして、「つまずきを解消するための手立て」のみでなく、「得意を伸ばす手立て」を示した。その中で、生徒の姿を具体的にイメージし、どのようなつまずきが見られたらどのような手立てを打つのかといったことが学習指導案に明示されている。

【研究内容（１）評価の工夫　②学習活動の中での自己の姿を客観的に知り、評価できるような音声言語教育の評価の在り方を工夫する】について

授業の中で「互いの立場や考えを尊重して、結論を導くための話し合い方」を「考えが広がった」という実感を伴って理解することを目指した。そのために、生徒の役割に司会、フロア、パネリストの他に「評価者」を位置づけ、話し合いがどこで進展したのか、誰の発言の仕方が目的に沿っていたのかを討論後に指摘し合わせた。それによって、話し合いや思考の過程を客観的に捉えることができ、考えの広がりを実感しやすくなった。

③ 片山　博寿　　教諭（岐阜市立加納中学校）

◇単元名：「論旨を捉えて～課題解決に向けて会議を開く」（３年）

【研究内容（１）指導計画の工夫　①「生きてはたらく言語能力」のさらなる明確化】について

全体会議の中で合意形成をすることを目指し、「合意形成のしかた」を指導した。そして「合意形成のしかた」として、「話し合いの『目的』や『ゴール』を常に意識する」「観点に沿って、意見や提案を絞り込む」「共通点・相違点を整理し長所を生かしてまとめたり新たな提案をしたりする」の３つを生徒に理解させた。

また、「話し合いで活用したい表現」として「類似型」「合体型」「盛り合わせ型」「創造型」「変更型」「追加型」等を提示し、具体的な話型として生徒が使えるようにした。

【研究内容（１）指導計画の工夫　②学ぶ魅力・必然性のある教材開発】について

「南海トラフ地震が起きた時、加納中学校区全員が生き延びることができるように、加納中生である私たちは、今、何ができるだろうか」というテーマで、地域の自治会連合会会長の依頼を受けながら、必然のある全体会議を行った。

（３）「中国研ホームページを活用した情報共有」への資料提供

以下の３名の先生方の御実践について、「中国研ホームページを活用した情報共有」に資料を提供した。

① 川久保　智子　　教諭（岐阜市立長良中学校）

◇単元名：「論点を捉えて」～グループディスカッションをする～（１年）

◇提供予定資料：学習指導案・学習プリント

② 加藤　祐輝　　教諭（岐阜市立加納中学校）

◇単元名：「論点を捉えて」～パネルディスカッションをする～（２年）

◇提供予定資料：学習指導案・学習プリント

③ 片山　博寿　　教諭（岐阜市立加納中学校）

◇単元名：「論旨を捉えて～課題解決に向けて会議を開く」（３年）

◇提供予定資料：学習指導案・学習プリント・板書写真

今年度も、「より再現性の高いもの」という観点を大切にして、中国研のホームページを見てくださった方が「なるほど。」「こんな風にやればいいのか。」と感じ、「やってみよう。」と思ってもらえるように、学習指導案のみでなく、学習プリントも提供していただいた。

また、実際の授業場面がよりイメージしやすいように、板書の写真も提供していただく予定である。

３　今年度の成果と課題

○副主題に掲げたように、単元の構想段階で「目指す生徒の姿」を具体化することを意識した実践が多くあった。「目指す生徒の姿」を具体化することによって、その姿になるために単位時間にどのような役割をもたせればよいのかが明らかになった。さらに、単位時間の中で生徒にどのような指導援助をすればよいかも明らかになった。その結果、焦点的な指導をすることが可能になり、生徒が力を付けることにつながっていった。

○話し合いの様子の動画をタブレットで撮影したり、レコーダーで録音したりして、評価に用いることができた。大変な時間のかかる作業ではあるが、適切な評価をするための方法として活用することができた。さらに、発言していない生徒の評価として学習プリントの記述を活用することも行い、評価の精度を高めることができた。

○評価を行ったことにより、生徒の習熟度が明らかになり、つまずきが見られた生徒への次の支援を適切に行うことにつながった。

○話したり話し合ったりするテーマを工夫し、生徒が「話したい」とか「話し合いたい」という必要感をもち、主体的に取り組む実践が多く見られた。

●評価について、現状でもっとも適切な評価ができると考えられる方法が、動画の撮影や音声の録音であり、授業後にそれを聞くというものである。しかし、大変な労力のかかる方法であり、グループ・ディスカッションでは１回 10 分程度の話し合いを６グループ分見なければならなかったという実践報告もあった。話すこと・聞くことにおける効果的な評価方法について、今後も研究が必要である。

●生徒が「話したい」と思うようなテーマと、その時間、単元にこそ指導するべき指導事項とのつながりについてもさらなる研究が必要である。

４　来年度の方向

①　「必然のある言語活動」の設定

・学習に対する必然（なぜその学習を行わなければならないのかといったことや、その学習を行うことの価値）をもたせ、生徒と共有すること。

・「話してみたい」「話し合いたい」というような生徒が主体的に活動するテーマの設定をすること。

・生徒が「話したい」「話し合いたい」と思うようなテーマと、その時間や単元にこそ指導する指導事項がうまく重なるようにすること。

②　「目指す生徒の姿の具体化」の継続

単元の構想段階で、生徒がどのような力を付け、どのような姿で話したり聞いたり話し合ったりすればよいのかを。明確にすることが重要である。今後も、「学習指導要領の指導事項」→「学習指導要領の解説」→「目指す姿」という順序で明確化に取り組んでいきたい。

③　「生きてはたらく言語能力」及び「言語活動例」一覧表の加筆

上記のように、研究部員の先生方を中心にして実践を積み重ねた結果、実践を蓄積することができている。そのことを「生きてはたらく言語能力」及び「言語活動例」一覧表に加筆という形で反映させていき、さらに精度の高い実践を行えるようにしていきたい。

④　付けたい力が効果的に身に付く単元の構想

限られた時間の中で、どのように単元を仕組んでいくと、生徒に効果的に力を身に付けさせることができるのか。単元の中に練習の時間を組み入れたり、他領域との関連指導を行ったりと、どのように単元を仕組むと効果的に力を身に付けさせられるのかについて考えたい。また、独話（スピーチやプレゼンテーション）の時と対話（ディスカッションや会議）の時とで同じような手立てがあるのか、それぞれ異なるような手立てがあるのかについても考えてみたい。